

こども目線でおもしろさを探そう！

こどもケンチク新聞

第16号

2023年12月
編集発行：こどもケンチク新聞社

ケンチクDATA

SHIBAURA HOUSE
所在地：東京都港区
オープン：2011年
設計：妹島和世建築設計事務所

体験する
ケンチク

SHIBAURA HOUSE

みんなの場所ってなんだろう

建築に込めた思いは？

二二のユニークな点は？

百年前、ここは海でした。埋立られて最初に作られたのが、倉庫やオフィスビルです。最近ではマンションも建つて、人が住むようになりました。でも住んでいる人や働いている人がお互いのことを全く知らない。これはおかしい、嫌だなと僕は思ったんです。それで、社屋の建て替え時に地域に開かれた場所にしようと思いました。

どんな場所を作ろうかと考えた時に、SHIBAURA HOUSE という名前の通りに「家」みたいになるといいなと思いましたが、地域みんなや子どもたちが、一緒に使えるような一軒の家に。

このビルができた時に、デザインをしてくれた妹島さんに「どういう人に使ってもらいたいですか」と聞いたなら「子どもたちに」との答えでした。なぜかというところ、ここにあることで、子どもたちに「こういう、周りとは違うものを作ってもいいんだよ」と、みんなに伝わると思います。

ただ、カッコよすぎて最初はここが「誰でも入れる場所」だとわかってもらえなかった。美術館か何かだと。だから、植物を置いたり、たくさんイベントをしたり、中に入りやすいようにと、工夫しました。すると徐々に人が入るようになりました。それと、この建物は僕の会社のスタッフが働く場所でもあるから、いいデザインの発想が生まれやすい、仕事しやすい環境を作ればいいかも考えながら運営しています（伊東さん）。

このコンセプトは「地域のみんなと一緒に使える、芝浦の一軒の家」なんですけど、敷地はそんな広くない。それでどうしようかと、設計事務所のスタッフの人（山本さん）と、相談しました。それで「縦型のひとつの家みたい」と、下から上までをらせん階段でつなぐアイデアが出てきました。これは5階建てだけ隣（一〇階建てビル）と高さを合わせたので、中が開放的だし、街並みもきれいに見えます（伊東さん…以下同）。

あと、ガラス張りなこともユニークな点ですね。この建物はイベントやレンタルスペースとしていろいろな人や団体が使うから通りから見え、毎回見えるものが違う。それが面白いという人もいます。

カタチにした人の考え

移動が楽しくなる階段
プロジェクトが始まった頃に伊東さんから「エレベーターは必要ない」と言われました。それは、働く人や建物を使う人たちが、自分のいるフロアや机に閉じこもらず、移動する時も自然とコミュニケーションが起きるような風通しのよい働く空間を目指していたからです。最終的にはエレベーターを設置しましたが、なるべく積極的に階段を使ってもらえるように、建物のいろいろなところから見える場所に設置して、街の風景や外の空気を感じながら楽しく移動できるような形の階段を目指しました。

二二も食べ物にたとえると？

白いご飯です。白いご飯はどんな物にも合うので。例えば焼肉や卵などおかず次第でいろいろなかず次第ができますよね。これからもうそういう場所にしていきたいと思っています。



カタチにした人の考え

みんなの公園を1階に
周辺を歩いてみると公園が少ないことに気づき、1階は公園のような場所となるのいいと考えました。そのことで今の1階がそうであるように、仕事をしている人や休憩している人、待合せをするお母さん達、学校帰りの子どもたちが気軽に訪れて時間を過ごすことができます。一方で敷地周辺の建物は、どの建物も敷地いっぱい建っています。それらの街並みに合わせるように、建物の広さと高さを考えました。これらが理由で1階をそのまま外にするのではなく、ガラスで見通しのよい、屋内の公園とも呼べる場所になりました。

雨や寒い日でもいろいろな活動が行われ、天気の良い日は、通りに面した大きなドアを開けて半屋外空間にもなります。中で活動する人はいつも街の景色を感じられ、街からは中の活動の様子がよく見え、ちよつと立ち寄りたくなるような、街にぎわいを生むのではないかと考えました。

カタチにした人の考え

みんなの場所を作るには
周辺の環境とつながると、自然とだれでも入ってくることができ、居心地の良い場所が生まれます。また、内部空間も周辺環境などを手がかりにいろいろな居場所をつくり、時間や気候、気分、1人でもグループでも、その時々によって居場所を選べるような空間づくりを大事にしています。

カタチにした人の考え

この街をどう生かそう？
伊東さんから「地域とともにある開かれたオフィス」という依頼をいただいていたから、田町に改めて訪れてみると、広告製版社（伊東さんの会社）が古くから活動を続けてきたこの敷地周辺は、商店街がある古くからの街、湾岸エリアに広がる比較的新しい街、オフィス街、大学などがあり、大人から子どもまで様々な人たちがいることが感じられました。それらの人たちが気軽に集まり交流が生まれる場所をつくることで、建物も街もお互いに活気が生まれるのではないかと考えました。（設計担当…山本力矢さん…以下同）

どんな場所か人気ですか？

1階でお昼ご飯食べたり、2階のソファで昼寝したり、過ごす場所も過ごし方も人それぞれです。地域の人の向けに開放しているのは、基本的に1階と2階なんですけど、会社員の人はよく2階でご飯を食べて仕事したり、たまに昼寝したりしてるかな。子どもたちは1階が好きですね。ここに来る人は常連さんが多いので、スタッフと仲よくしゃべっている光景をよく目にします（堀さん）。

記者のお気に入り

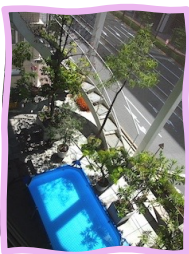
私のお気に入りには4階のオフィスと3階の休憩スペースを繋ぐ階段です。このらせん階段はオフィスから休憩所を眺められ、お互いを身近に感じられるそうです。（あおい）



僕の一番のお気に入りにはテラスがガラス窓ではなく金網になっているところなんです。道路の近くなので物が飛んだら危ないけど、囲まれているので安心です。同時に風通しがよくて開放感があってとても好きです。（Joe）



私のお気に入りにはテラスです。テラスにはフェンスがあるのですが、このフェンスがあることで外にも内にも開けた場所ができています。素材の選び方に驚きました。（ゆず）

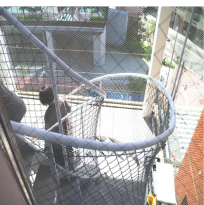


右写真：1階ではさまざまなイベントやワークショップが行われる。左写真：取材中の記者たち



中庭のような吹き抜け

自由に休んだり食事でもできる2階フロア



建物の中と外、上と下をつなぐらせん階段



カタチにした人の考え

みんなの場所を作るには
周辺の環境とつながると、自然とだれでも入ってくることができ、居心地の良い場所が生まれます。また、内部空間も周辺環境などを手がかりにいろいろな居場所をつくり、時間や気候、気分、1人でもグループでも、その時々によって居場所を選べるような空間づくりを大事にしています。